

■研究・実践の課題（テーマ）

食アレルギーや食文化におけるユニヴァーサルデザインの配慮を踏まえた国際ピクトグラムの研究-その3-

■主任研究者 川原啓嗣

■共同研究者 黄ロビン 尹成濟 伊藤章宏 高津ゆい

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックまでに訪日外国人観光客数を年間 4000 万人に増やす政府目標が掲げられており、競技施設だけでなく周辺の駅や道路環境をユニヴァーサルデザインの考えで整備すると安倍首相も明言しているが、駅コンコースにおける誘導サインの見直しや多言語表示などの方針が出されているものの、観光客が滞在する宿泊施設やレストラン等飲食店における受け入れ体制はまだ未整備である。

本研究では「食のユニヴァーサルデザイン」からのアプローチとして、食事を提供するホテルや旅館、そして街中のレストランや居酒屋での、言語の異なる様々な外国人とのコミュニケーションにおいて有効なピクトグラム（絵文字）の研究開発と国内外の関係機関の協力で行うアンケート調査（ネット調査）による検証を通して、空港や駅に設置された観光案内所やインターネットのホテル・レストランガイドラインでも活用され、飲食店の看板やメニューにも利用できるピクトグラムの国際モデルを提案することが目的であり、その結果として外国人だけでなく障害者や高齢者を含め広く一般の市民にも喜ばれる生活環境づくりに貢献できれば幸いである。

方法：

昨年度の研究を踏まえ、2018 年度は、「宗教・自身の主義による食に対する禁止事項について」「理解しやすい図像について」を調査研究した。研究を進める上で、「世界の生活・文化・社会による認識の違い」などが明らかになった。そこで今年度はその違いの追加研究、調査を行った。その調査を基にピクトグラムを製作し来年度に検証、提言をすることと研究スケジュールの修正をした。

また、近年のスマートフォンなどのデジタルデバイスの普及率が海外、日本で伸びており、今後も成長していくと予想される。そういった背景などから、ピクトグラムの搭載媒体にデジタル媒体、インターネット媒体を追加し対応するピクトグラムのデザインを進めることとなった。

今後の展望として 2019 年夏頃にアレルギー表示特定原材料 8 品目のピクトグラムの完成をし、秋頃から検証、最終的には関係機関への提言を進める。